2 子育て支援プロジェクト

集会所の有効活用

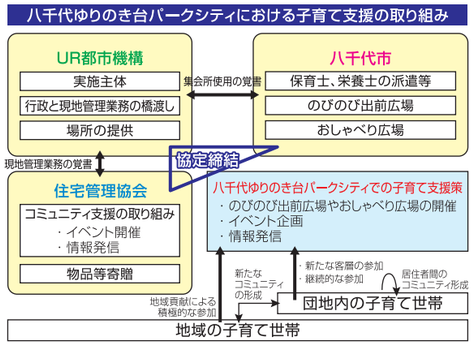
UR都市機構はかねてより子育てしやすい居住環境をつくりだすために、子育て世代に対して、UR賃貸住宅の新規入居を優遇する制度を設けるとともに、団地内に保育所などの施設を数多く誘致してきました。これからもこれらの取り組みを継続するとともに、子育て支援事業を展開する機関や事業者がテナントとして参画しやすいよう優遇措置を実施していきます。

ここではUR賃貸住宅の集会所を活用した取り組みとして、千葉県八千代市ゆりのき台パークシティにおける、八千代市、(財)住宅管理協会と連携した『のびのび出前広場』『おしゃべり広場』の事例、東京都立川市において立川市とパートナーシップ協定を締結している「いれたち・ねっと」の協力で実現した「子育てイベント」の事例をご紹介します。

事例1 八千代ゆりのき台パークシティ「のびのび出前広場」「おしゃべり広場」

はじめて妊娠したママ候補、子育てに奮闘中のママ同士がゆっくり話し合い、0歳から就学前の子供たちは、部屋の絵本や玩具で遊ぶ『のびのび出前広場』(月2回)、ママたちが保育士と話し合う『おしゃべり広場』(年5回)が、八千代パークシティ第2集会所で開かれています。子育て拠点として回を重ねるごとに、参加登録者も増加しています。

3者連携スキーム



のびのび出前広場（平成22年3月5日）

八千代ゆりのき台パークシティ

所 在 地：千葉県八千代市ゆりのき台
交　　通：東葉高速鉄道 八千代中央駅　徒歩3分
　　京成本線 八千代台駅　バス18分・徒歩3分
敷地面積：約5.6ha
総 戸 数：776戸
管理開始：平成10年3月～平成15年3月

事例2 プラザシティ立川「子育てイベント」

『ママとキッズのふれあいビクス』を開催。子育て中のママがお子さんを連れて参加し、お子さんの体重を利用したストレッチや、抱っこしながらのステップなど、親子で身体を動かしてリフレッシュ。参加者同士の交流も生まれて好評です。

プラザシティ立川

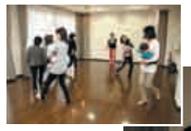
所 在 地：東京都立川市曙町
交　　通：JR中央線ほか 立川駅　徒歩4分
　　多摩モノレール 立川北駅　徒歩2分
敷地面積：約1.3ha
総 戸 数：307戸
管理開始：平成12年3月～平成13年3月

今回取材したプラザシティ立川の他にも、立川市曙町にある3つのUR賃貸住宅からも「子育てイベント」に参加いただいています。

アーバンライフ立川
交　　通：JR中央線ほか 立川駅　徒歩6分
　　多摩モノレール 立川北駅　徒歩3分
総 戸 数：202戸

シティコート立川曙町
交　　通：JR中央線ほか 立川駅　徒歩15分
総 戸 数：93戸

アートアベニュー立川
交　　通：JR中央線ほか 立川駅　徒歩12分
　　多摩モノレール 立川北駅　徒歩12分
総 戸 数：192戸



ママとキッズのふれあいビクス in プラザシティ立川
（平成22年3月15日）

3 高齢者支援プロジェクト

安心住空間創出プロジェクト

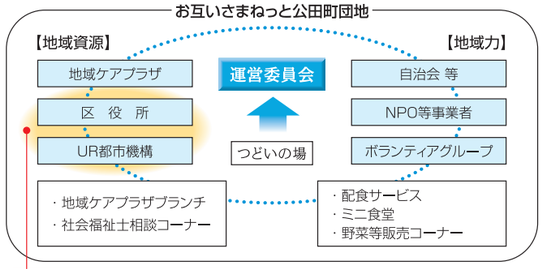
UR都市機構は、戦後の高度成長期の大都市圏の住宅不足に対処して、約76万戸の公的賃貸住宅を建設しました。しかし50年近い歳月が経過し、時代や社会の変貌によって様々な課題が生まれてきました。そのひとつが居住者の高齢化です。平成17年度の定期調査結果によると、UR賃貸住宅における高齢者が住む世帯率は33%まで上昇し、高齢単身者世帯も11%に達しました。

これまでにも、低所得の高齢者世帯等に対する家賃の減額、生活支援施設の誘致、バリアフリー仕様の高齢者向け優良賃貸住宅の供給、住み良いリニューアル住宅の供給、高齢者見守りサービスなどの方策を展開してきました。

現在は、新たな取り組みとして、在宅長寿対応住宅や、生活支援アドバイザーの配置などを試行しており、今後さらに、安心住空間創出プロジェクトとして、住居、見守り、食事、医療、介護の5つの安心の確保と、それを支える新たなコミュニティの形成を目指した事業を展開していきます。ここでは先駆的な事例として、横浜市栄区公田町団地をご紹介します。

安心住空間創出プロジェクト 取組事例
（横浜市栄区公田町団地）

「お互いさまねっと」とは
公田町団地を対象に高齢者などの見守り活動を強化するために発足したもので、見守り活動のほか、毎週火曜日に「あおぞら市」を、火・土曜日に社会福祉士による「相談事業」を行っています。



※横浜市資料より

公田町団地（くでんちょう）

所 在 地：神奈川県横浜市栄区
交　　通：JR東海道線ほか 大船駅
　　バス15分・徒歩1分
敷地面積：9.3ha
総 戸 数：1,160戸
管理開始：昭和39年4月～昭和39年7月

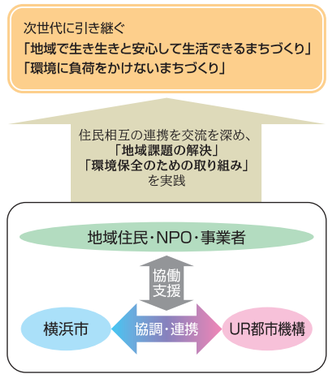
「あおぞら市」の活動

TOPIC 『お互いさまねっと いこい』が公田町団地にオープン。

高齢者の生活を支援するために生まれた「お互いさまねっと公田町団地」。あおぞら市などの活動とともにNPO法人を設立。今年3月、団地内の既存施設を活用し、安心住空間創出プロジェクトに基づく全国初の交流拠点「お互いさまねっといこい」を開設しました。

これに先立って、横浜市とUR都市機構では、市内に約130あるUR賃貸住宅ストックを活用し、「地域で生き生きと安心して生活できるまちづくり」・「環境に負荷をかけないまちづくり」を実現するための包括的な協定を締結。今後も取り組みを推進していく予定です。

オープニングセレモニー

「お互いさまねっと いこい」外観

包括協定のイメージ